

13 消毒・滅菌について



13.1 部品の消毒及び滅菌

⚠ 注意



- 1) メンテナンスは、診療終了後（1）（2）……の順に行ってください。
- 2) メンテナンスは、必ずゴム手袋を着用してください。
- 3) インストルメントの詳細は各インストルメントの取扱説明書を参照してください。
- 4) 滅菌器の詳細は各滅菌器の取扱説明書を参照してください。

1. インストルメントホース・インストルメントホルダーの清掃・消毒 診療終了後行って下さい

（1）清掃 1日1回

インストルメントホース	インストルメントホルダー
	
ユニットクリーナーまたは水分を含ませたガーゼ等で拭いて下さい。	

（2）消毒 1日1回

インストルメントホース	インストルメントホルダー
	
消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。	

2. ユニットの清掃・消毒 診療終了後行って下さい

（1）清掃 1日1回

清掃

ユニットクリーナーをカバー部につけ、水で濡らしたスポンジで延ばすように擦って下さい。その後、乾いた布で軽く拭いて下さい。

（2）消毒 1日1回

消毒

消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。


13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌


3. インストゥルメントのお手入れ

●コントラアングルハンドピース (CAG04)

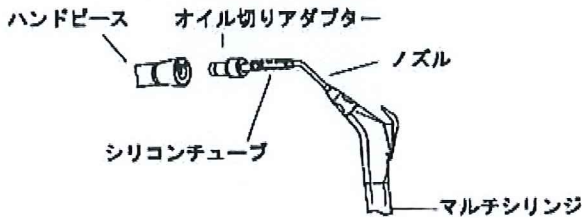
(1) 清掃 (使用の都度)

<p>清掃</p>  <p>ライトガイド 端面</p>	
<p>ガーゼ等の柔らかい布で汚れを拭き取って下さい。 ライトガイド端面にオイル・汚れが付着している場合は、消毒用エタノールを含ませた綿棒で清拭して下さい。 血液が付着した場合は、ぬるま湯で血液を洗い流して下さい。</p>	
<p>⚠ 注意</p>	<p>ハンドピース後部から水が内部に入らないように注意して下さい。 洗った後はすぐに、ハンドピーススプレーにて2秒間の注油を行って下さい。</p>

(2) 注油・洗浄 (1日2回)

<p>注油・洗浄</p> 	
<p>外観清拭後、バーを抜き布またはティッシュペーパーなどで覆い、ハンドピーススプレーの缶をよく振ってから約2秒間注油して下さい。ハンドピース前方よりオイルが出ていることを確認して下さい。汚れが出なくなるまで繰り返して下さい。</p>	
<p>⚠ 注意</p>	<p>1) オートクレーブ滅菌前に必ず注油・洗浄を行って下さい。 2) 頻繁に使用する場合は、30分使用する毎に行って下さい。 3) 連続してスプレーをすると、ハンドピース内部が凍結する場合があります。暫くしてから回転させて下さい。すぐに回転させるとベアリングが損傷する恐れがあります。</p>

(3) オイル切り (1日2回)

<p>オイル切りアダプターによるオイル切り</p>  <p>ハンドピース オイル切りアダプター ノズル シリコンチューブ マルチシリンジ</p>	
<p>1) オイル切りアダプターとマルチシリンジのノズルをシリコンチューブで接続して下さい。 2) オイル切りアダプターをハンドピースに差し込んで下さい。 3) ハンドピース全体を布またはティッシュペーパー等で覆って下さい。 4) マルチシリンジのエアーレバー (Air : 右側) を押し、エアーを約1分間出して下さい。</p>	

<p>⚠ 注意</p>	<p>1) 水レバー (Water : 左側) を押さないで下さい。ハンドピース内に水が入ってしまいます。 2) マルチシリンジのエアー圧力が低い (弱い) のでオイル切りは必ず約1分間以上行って下さい。</p>
-------------	--

13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌

(4) 馴らし回転 (1日2回)

馴らし回転・オイル除去・オイル切り



バーを挿入して低速でヘッドを下向きにして30秒間回転させて下さい。バーを抜き表面についた余分なオイルをよく拭き取り、綿花を詰めたオイル切りキャップを下にして一晩(10時間以上)オイル切りして下さい。


※下線部はオートクレーブ滅菌を直に行う場合は不要です。モータのジョイント部(ハンドピースとの接続部)も布またはティッシュペーパー等で付着したオイルを拭き取って下さい。

⚠ 注意

- 1) 診療終了後、ハンドピース類はモータに取り付けたままにしないで下さい。モータにオイルが入り故障の原因となります。
- 2) 馴らし回転はヘッドを下向きにして行って下さい。

(5) 消毒 (使用の都度)

エタノール清拭




消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。

⚠ 注意 薬液への浸漬は行わないで下さい。

(6) 滅菌 (使用の都度)

滅菌



【オートクレーブ滅菌】
 清掃・注油・洗浄が済みましたらハンドピース表面を清拭し滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかを行って下さい。

⚠ 注意

- 1) モータは外カバーのみオートクレーブ滅菌できません。
- 2) オートクレーブ滅菌前に必ず、注油・洗浄を行って下さい。
- 3) 135℃以上の乾燥工程は行わないで下さい。
- 4) 乾熱滅菌・高圧アルコール蒸気滅菌は行わないで下さい。



13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌



3. インストゥルメントのお手入れ

●コントラシャンク (CS18)

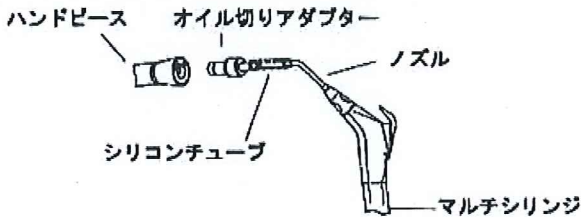
(1) 清掃 (使用の都度)


清掃	
	
<p>専用ブラシで切削粉などを取り除いて下さい。ライトガイド端面にオイル・汚れが付着している場合は、消毒用エタノールを含ませた綿棒で清拭して下さい。血液が付着した場合は、ぬるま湯で血液を洗い流して下さい。</p>	
 注意	<p>ハンドピース後部から水が内部に入らないように注意して下さい。洗った後は、すぐにハンドピーススプレーにて2秒間の注油を行って下さい。</p>

(2) 注油・洗浄 (月1回)

注油・洗浄	
	
<p>コントラヘッドは外して下さい。外観清拭後、バーを抜き布またはティッシュペーパーなどで覆い、ハンドピーススプレーの缶をよく振ってから約2秒間注油して下さい。ハンドピース前方よりオイルが出ていることを確認して下さい。汚れが出なくなるまで繰り返して下さい。</p>	
 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) オートクレーブ滅菌前に必ず注油・洗浄を行って下さい。 2) 頻繁に使用する場合は、30分使用する毎に行って下さい。 3) 連続してスプレーをすると、ハンドピース内部が凍結する場合があります。暫くしてから回転させて下さい。すぐに回転させるとベアリングが損傷する恐れがあります。

(3) オイル切り (月1回)


オイル切りアダプターによるオイル切り	
	
<ol style="list-style-type: none"> 1) オイル切りアダプターとマルチシリンジのノズルをシリコンチューブで接続して下さい。 2) オイル切りアダプターをハンドピースに差し込んで下さい。 3) ハンドピース全体を布またはティッシュペーパー等で覆って下さい。 4) マルチシリンジのエアレバー (Air : 右側) を押し、エアを約1分間出して下さい。 	

 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 水レバー (Water : 左側) を押さないで下さい。ハンドピース内に水が入ってしまいます。 2) マルチシリンジのエア圧力が低い (弱い) のでオイル切りは必ず約1分以上行って下さい。
--	--

13 消毒・滅菌について


13.1 部品の消毒及び滅菌

(4) 馴らし回転 月1回


馴らし回転・オイル除去・オイル切り

コントラヘッドを付けずに低速でヘッドを下向きにして30秒間回転させて下さい。バーを抜き表面についた余分なオイルをよく拭き取り、綿花を詰めたオイル切りキャップを下にして一晩（10時間以上）オイル切りして下さい。 ※下線部はオートクレーブ滅菌を直に行う場合は不要です。モータのジョイント部（ハンドピースとの接続部）も布またはティッシュペーパー等で付着したオイルを拭き取って下さい。

⚠ 注意	1) 診療終了後、ハンドピース類はモータに取り付けたままにしないで下さい。モータにオイルが入り故障の原因となります。 2) 馴らし回転はヘッドを下向きにして行って下さい。
-------------	--

(5) 消毒 使用の都度

エタノール清拭	
	
消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。	
⚠ 注意	薬液への浸漬は行わないで下さい。

(6) 滅菌 使用の都度

滅菌	
	
【オートクレーブ滅菌】 清掃・注油・洗浄が済みましたらハンドピース表面を清拭し滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかを行って下さい。	
⚠ 注意	1) モータは外カバーのみオートクレーブ滅菌できません。 2) オートクレーブ滅菌前に必ず、注油・洗浄を行って下さい。 3) 135℃以上の乾燥工程は行わないで下さい。 4) 乾熱滅菌・高圧アルコール蒸気滅菌は行わないで下さい。

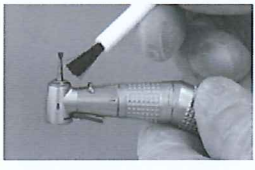

13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌



3. インストゥルメントのお手入れ

●コントラヘッド (CH18B)



(1) 清掃 使用の都度


清掃	
<p>バーを挿入したまま、専用ブラシで切削粉などを取り除いて下さい。</p> <p>血液が付着した場合は、ぬるま湯で血液を洗い流して下さい。</p>	
 注意	<p style="color: red;">洗った後は、すぐにハンドピーススプレーにて2秒間の注油を行って下さい。</p>

(2) 注油・洗浄 1日1回

注油・洗浄	
<p>外観清拭後、バーを抜き、布またはティッシュペーパーなどで覆い、ハンドピーススプレーの缶をよく振ってから約2秒間注油して下さい。ヘッド前方よりオイルが出ていることを確認して下さい。汚れが出なくなるまで繰り返して下さい。</p>	
 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) オートクレーブ滅菌前に必ず注油・洗浄を行って下さい。 2) 頻繁に使用する場合は、30分使用する毎に行ってください。 3) 連続してスプレーをすると、ハンドピース内部が凍結する場合があります。暫くしてから回転させて下さい。すぐに回転させるとベアリングが損傷する恐れがあります。

(3) 馴らし回転 1日1回

馴らし回転・オイル除去・オイル切り	 
<p>コントラヘッドをコントラシャンクに取り付け、バーを挿入して低速でヘッドを下向きにして30秒間回転させて下さい。</p> <p>バーを抜き表面についた余分なオイルをよく拭き取り、<u>綿花を詰めたオイル切りキャップを下にして一晩(10時間以上)オイル切りして下さい。</u></p> <p>※下線部はオートクレーブ滅菌を直ぐに行う場合は不要です。モータのジョイント部(ハンドピースとの接続部)も布またはティッシュペーパー等で付着したオイルを拭き取って下さい。</p>	

 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 診療終了後、ハンドピース類はモータに取り付けたままにしないで下さい。モータにオイルが入り故障の原因となります。 2) 馴らし回転はヘッドを下向きにして行って下さい。
---	--


13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌

(5) 消毒 (使用の都度)

エタノール清拭	
	
消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。	
⚠ 注意	薬液への浸漬は行わないで下さい。

(6) 滅菌 (使用の都度)


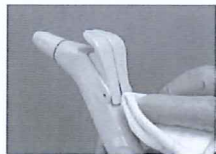
滅菌	
	
【オートクレーブ滅菌】 清掃・注油・洗浄が済みましたらハンドピース表面を清拭し滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかを行って下さい。	
⚠ 注意	<ol style="list-style-type: none">1) モータは外カバーのみオートクレーブ滅菌できません。2) オートクレーブ滅菌前に必ず、注油・洗浄を行って下さい。3) 135℃以上の乾燥工程は行わないで下さい。4) 乾熱滅菌・高圧アルコール蒸気滅菌は行わないで下さい。

13 消毒・滅菌について

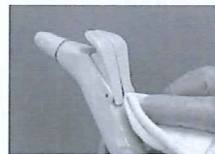
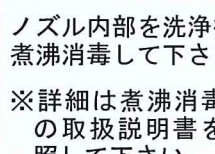
13.1 部品の消毒及び滅菌

●マルチシリンジ

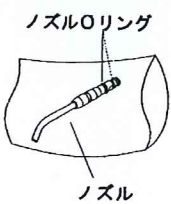
(1) 洗浄 (使用の都度)

洗浄	
	
使用後、水レバーを5秒間押し、ノズルより水を出して下さい。エアレバーも2-3回押してエアを出して下さい。	水で湿らせたガーゼ等で清拭して下さい。ノズルは流水下で洗い流し、水分を拭いて下さい。

(2) 消毒 (使用の都度)

エタノール消毒	煮沸消毒 (ノズル)
	
本体外側ケース及びノズルを消毒用エタノールで湿らせたガーゼ等で清拭して下さい。	ノズル内部を洗浄後、煮沸消毒して下さい。 ※詳細は煮沸消毒器の取扱説明書を参照して下さい。

(3) 滅菌 (使用の都度)

滅菌 (ノズル・先端カバー・チャック・パッキン・握手ケース)				
				
ノズルリング ノズル	1mm以上あける 握手ケース 先端カバー	1mm以上あける 握手ケース 先端カバー ノズル		
洗浄・消毒が済みましたら滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかで行って下さい。				
⚠ 注意	<ol style="list-style-type: none"> 135℃以上の乾燥工程は行わないで下さい。 乾熱滅菌は、高圧アルコール蒸気滅菌は行わないで下さい。 先端カバーと握手ケースは1mm以上あけてから滅菌して下さい。▲マークが合った位置で行いますと、破損する恐れがあります。 握手ケースを滅菌する場合は、本体に傷をつけない為に他の物と一緒に滅菌パックに入れないで下さい。 取扱商品『プチクレープ』等、握手ケースを立てて滅菌する場合はノズルが入る側を上にして滅菌して下さい。 滅菌後、ノズルリング・先端リング(握手ケースを滅菌した場合のみ)にグリスを塗布して下さい。マルチシリンジに付属のグリス以外は使用しないで下さい。 			

13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌

●エナックハンドピース・チップ

(1) 洗浄

使用の都度

(2) 消毒

使用の都度

(3) 滅菌

使用の都度

洗浄 (チップ)	エタノール清拭 (ハンドピース)	薬液浸漬 (チップ)	滅菌 (ハンドピース、チップ着脱工具)						
									
<p>流水で洗浄して下さい。</p>	<p>消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="539 891 799 1077"> <tr> <td data-bbox="539 891 635 1077"> <p>⚠ 注意</p> </td> <td data-bbox="635 891 799 1077"> <p>オイルや薬液への浸漬は行わないで下さい。</p> </td> </tr> </table>	<p>⚠ 注意</p>	<p>オイルや薬液への浸漬は行わないで下さい。</p>	<p>消毒用薬液にチップを浸漬して下さい。消毒後、消毒用薬液を流水で洗い流して下さい。</p> <table border="1" data-bbox="826 880 1107 1189"> <tr> <td data-bbox="826 880 922 1189"> <p>⚠ 注意</p> </td> <td data-bbox="922 880 1107 1189"> <p>腐食作用の強い薬品 (塩素系・次亜鉛素酸ナトリウム・・等、ヨウ素系：ヨードチンキ・・等、逆性石鹼) は使用しないで下さい。</p> </td> </tr> </table>	<p>⚠ 注意</p>	<p>腐食作用の強い薬品 (塩素系・次亜鉛素酸ナトリウム・・等、ヨウ素系：ヨードチンキ・・等、逆性石鹼) は使用しないで下さい。</p>	<p>チップは洗浄・消毒後、ハンドピースはエタノール清拭後に必ず水気をきって滅菌パックに入れるかガーゼに包んでカストに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかで行って下さい。</p> <table border="1" data-bbox="1166 1010 1449 1200"> <tr> <td data-bbox="1166 1010 1262 1200"> <p>⚠ 注意</p> </td> <td data-bbox="1262 1010 1449 1200"> <p>1) 135℃以上の乾燥工程を行わないで下さい。 2) 乾熱滅菌は行わないで下さい。</p> </td> </tr> </table>	<p>⚠ 注意</p>	<p>1) 135℃以上の乾燥工程を行わないで下さい。 2) 乾熱滅菌は行わないで下さい。</p>
<p>⚠ 注意</p>	<p>オイルや薬液への浸漬は行わないで下さい。</p>								
<p>⚠ 注意</p>	<p>腐食作用の強い薬品 (塩素系・次亜鉛素酸ナトリウム・・等、ヨウ素系：ヨードチンキ・・等、逆性石鹼) は使用しないで下さい。</p>								
<p>⚠ 注意</p>	<p>1) 135℃以上の乾燥工程を行わないで下さい。 2) 乾熱滅菌は行わないで下さい。</p>								

13 消毒・滅菌について



13.1 部品の消毒及び滅菌

●エアータービン (0F1) (オプション)

(1) 清掃 (使用の都度)

(2) 注油・洗浄




(1日2回、午前と午後の診療終了後)

ヘッドの清掃	注油・洗浄	馴染し回転・オイル除去
		
<p>バーを挿入したまま専用ブラシで切削粉などを取り除いて下さい。</p>	<p>1) バーを抜き、タービンスプレーの缶をよく振ってから布またはティッシュペーパーなどで覆って、OTノズルをチャック内に挿入して、上蓋を押したままチャック内部へ約2秒間注油して下さい。</p> <p>2) スプレーノズルをタービンスプレーに取り付けてエアータービンのホースジョイント部に差し込み水平にした状態で約2秒間注油して下さい。</p>	<p>注油後、エアータービンをホースに取り付けバーを装着後、エアータービンから出た余分なオイルをよく拭き取って下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⚠ 注意 オイルが黒い時(汚れがひどい時)は、きれいになるまで洗浄を繰り返して下さい。</p> </div>

(3) オイル切り (1日2回)

(4) 消毒 (使用の都度)

(5) 滅菌 (使用の都度)

オイル切り	エタノール清拭	滅菌
		
<p>バーを抜き、綿花を詰めたオイル切りキャップに立てて一晩(10時間以上)オイル切りをして下さい。</p> <p>※オートクレーブ滅菌を直ぐに行う場合は不要です。</p>	<p>消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⚠ 注意 オイルや薬液への浸漬は行わないで下さい。</p> </div>	<p>【オートクレーブ滅菌】</p> <p>清掃・注油・洗浄・消毒が済みましたら必ず水気をきって滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上・135℃・3分以上のいずれかで行って下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⚠ 注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オートクレーブ滅菌前に必ず、注油・洗浄を行って下さい。 2) 135℃以上の乾燥工程は行わないで下さい。 3) 乾熱滅菌・高圧アルコール蒸気滅菌は行わないで下さい。 4) インstrumentを立てて滅菌する場合は、ヘッドを上にして行って下さい。 </div>

13 消毒・滅菌について

13.1 部品の消毒及び滅菌

4. ポータブルバキュームの清掃・消毒・滅菌

診療終了後行って下さい

●バキューム（吸込パイプ先・吸込パイプA）

(1) 洗浄 使用の都度

洗浄

掃除用ブラシ（別売）を用いてパイプの中まで流水で洗浄して下さい。

(2) 消毒 使用の都度


薬液消毒	煮沸沸騰
	※詳細は煮沸消毒器の取扱説明書を参照して下さい。
消毒用薬液に浸漬して消毒して下さい。消毒後、消毒用薬液を流水で洗い流して下さい。	



注意

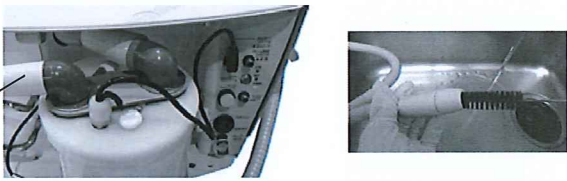
腐食作用の強い薬品（次亜鉛素酸ナトリウム・・・等、ヨウ素系：ヨードチンキ・・・等、逆性石鹼）は使用しないで下さい。

(3) 滅菌 使用の都度

滅菌		【乾熱滅菌】 ※詳細は乾熱滅菌器の取扱説明書を参照して下さい。
【オートクレーブ滅菌】 洗浄・消毒が済みましたら必ず水気をきって滅菌パックに入れ、121℃・20分以上、132℃・5分以上、135℃・3分以上のいずれかで行って下さい。		
注意	吸込パイプ先は 135℃以上の乾燥工程を行わないで下さい。	注意
		吸込パイプ先は乾熱滅菌を行わないで下さい。

●バキュームホース

(1) 洗浄 使用の都度

洗浄

バキュームホース
1) 排水タンクよりバキュームホースを外して下さい。 2) 両端のブラシが届く範囲はブラシを用いて、その他はホースの中へ流水で洗浄して下さい。 3) 洗浄後、逆の手順でバキュームホースを本体に取り付けて下さい。

(2) 消毒 使用の都度

消毒

バキュームホースの外周を、消毒用エタノールを浸み込ませたガーゼ等で清拭して下さい。

13 消毒・滅菌について

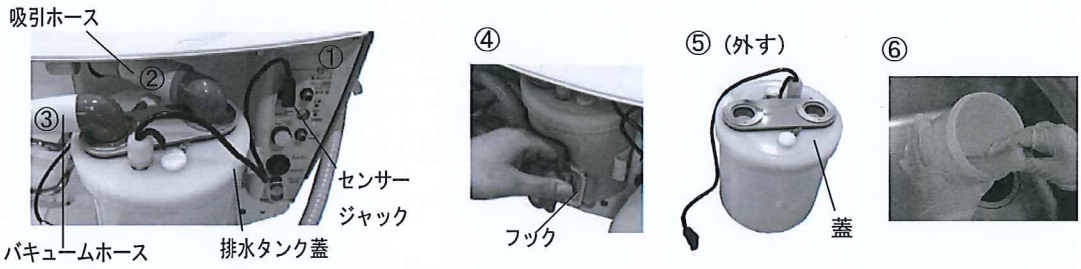
13.1 部品の消毒及び滅菌

5. 排水タンク、水タンクの洗浄・消毒

診療終了後行って下さい

●排水タンク 使用の都度

洗浄



① センサージャックを外して下さい。② 吸引ホースを外して下さい。③ パキュウムホースを外して下さい。④ フックを本体より外し、排水タンクを外して下さい。⑤ 排水タンクの蓋を外して下さい。⑥ 蓋の内部側および排水タンク内部をスポンジで水洗いして下さい。汚れのひどい場合は中性洗剤で洗い、その後水洗いして下さい。

1) 洗浄後、逆の手順で排水タンクを本体に取り付けて下さい。

⚠ 注意	<p>1) 診療終了後に、必ず往診先で排水タンク内の吸引物を捨て、吸引物が入ったまま移動しないで下さい。</p> <p>2) 金属タワシは傷をつけますので使用しないで下さい。</p> <p>3) センサージャックは水に濡らさないで下さい。濡れてしまった場合は必ず乾燥させてから接続して下さい。</p>
------	--

●水タンク 使用の都度


(1) 洗浄 使用の都度

洗浄




水タンク蓋を外し、水タンク内を中性洗剤で洗って下さい。乾燥させて本体に取り付けて下さい。

(2) 消毒 使用の都度

エタノール清拭	煮沸消毒
 <p>水タンク外部を消毒用エタノールで清拭して下さい。</p> <p>⚠ 注意 オートクレーブ滅菌は行わないで下さい。</p>	<p>水タンクは煮沸消毒が可能です。</p> <p>※詳細は煮沸消毒器の取扱説明書を参照して下さい。</p>

13 消毒・滅菌について

13.2 オートクレーブ滅菌の可能範囲

- 1) オサダのインスツルメント類で、オートクレーブ可能マーク のあるものは、滅菌・乾燥工程含めて、135℃の温度を超えない範囲でのオートクレーブ滅菌が可能です。
- 2) その他インスツルメント以外で、取扱説明書上でオートクレーブ可能と書かれているものについても可能です。
注意事項は、厳守して下さい。

13.3 オートクレーブによる性能劣化

インスツルメント類は、オートクレーブ滅菌（熱、圧力、水蒸気など）により、部材の錆、腐食、変質、変色が起こり、性能、機能の劣化が徐々に進みます。

13.4 オートクレーブによる急激な劣化防止

- 1) 取扱説明書に書かれている注意事項を厳守して下さい。
- 2) 滅菌温度または缶体内温度が135℃以上になる、またはなる可能性のあるオートクレーブ機器は、使用は避けて下さい。
- 3) オートクレーブ滅菌は、滅菌ケースまたは滅菌バックに入れて行って下さい。機器に発生した錆の伝播も防げます。
- 4) オートクレーブ機器によっては、使用できる水が決められているものがあります。必ず、ご使用になるオートクレーブ機器の取扱説明書を参照して下さい。
水には、地域により塩素濃度、鉄分濃度、その他種々な不純物を多く含むなど多彩あり、それらが部材に影響することがあります。
- 5) 滅菌する前にインスツルメントの汚れを取り除いて下さい。
薬液、血液が残っていたりすると、滅菌過程でそれらが影響（錆、変色、凝固等）し、劣化や性能が出ない原因になります。
- 6) オートクレーブ滅菌することにより、水は汚れます。水を交換する際は、各オートクレーブ機器の取扱説明書を参照して下さい。